

■ 固有技術調査結果報告会（会員限定）

地域の中小部品メーカーが次世代自動車へ対応するためには、自社の固有技術を認識・活用し、更にレベルアップを図ることによって、次世代自動車搭載部品を開発・設計、製造・販売していくことが必要です。今回、次世代自動車センターでは、自社が持つ技術を棚卸することによって固有技術を認識する方法を解説するとともに、実際に固有技術を見える化した会員企業8社に、それぞれの事例をご紹介していただきました。

- 日 時：平成30年12月20日（木）
- 会 場：ホテルクラウンパレス浜松
- 参加者：245名

【当日の次第】

〔開会挨拶〕

次世代自動車センター センター長 望月 英二

〔来賓挨拶〕

浜松市 産業部長 渡瀬 充雄 氏

〔固有技術の探索方法について〕

次世代自動車センター センター長 望月 英二

〔固有技術を見える化した事例〕

(株)ソミック石川、イオインダストリー(株)、(株)榛葉鉄工所、宝和工業(株)、(株)ベルソニカ
MPP KOMATSU(株)、やまと興業(株)、浜名部品工業(株)

〔名刺交換〕

センター長による固有技術探索活動の取り組み状況と「固有技術探索チャート」の使い方、固有技術探索の意義や利用の仕方を示し、その探索チャートの作成方法について詳しく解説しました。

見える化した事例の紹介では、会員企業8社が自社の開発部品について技術の棚卸を行い、固有技術を探索した先行事例を具体的に説明していただきました。また、会場後方では、これら8社が展示ブースを設けて固有技術探索チャートを掲示し、参加者に説明していただくとともに、活発な名刺交換が行われました。



<会員企業による固有技術の紹介ブース>

【参加者の声】

- 生産プロセスにおける固有技術の整理大変有用はツールであると感じました。
- 自社固有技術の棚卸→認識の重要性が理解できた。
- 固有技術探索チャートをもとにしたデータベースでのマッチングは有効なものだと思います。マッチングだけでなく企業サポートをする上で企業の強み弱みを知ることが重要だと思います。
- 自社での活用検討が必要であると感じました。
- 「新製品、新技術の開発は0から新しいものをつくる訳ではなく、固有技術を見直すところから始める」という点が大変面白かったです。